

EXPOCITY

「遊ぶ、学ぶ、見つける」を融合した
エンターテインメント集積施設

2015年11月、大阪府北部・千里丘陵に日本最大級の大型複合施設「EXPOCITY」がオープンした。この地は、1970年「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、日本万国博覧会「EXPO'70」が開催された万博記念公園の一角。2015年9月には、隣接してJリーグ「ガンバ大阪」のホームスタジアムである「市立吹田サッカースタジアム」も竣工した。

EXPOCITYのコンセプトは「遊ぶ、学ぶ、見つける」楽しさを一つに」。17.2haという広大な敷地には、「三井ショッピングパーク ららぽーとEXPOCITY」を中核施設に、海遊館のプロデュースによる「NIFREL」や大自然超体感型エンターテインメント施設「オービィ大阪」を初めとした個性的な8つのエンターテインメント施設が配されている。単一のテーマパークではなく、自然やコミュニケーションなどの「エデュテインメント」に加え、生活に必要な日常の経験としてのショッピングも一つのエンターテインメントと捉え、エンターテインメントとショッピングを集積・融合。各エンターテインメント棟を万博パビリオンのように分け、回遊させることで、さまざまな価値観や相乗効果を発揮するように図られている。

EXPOCITY

所在地／大阪府吹田市千里万博公園
事業主体／三井不動産株式会社
環境デザイン／フェルナンド・バスケス
設計／竹中工務店株式会社
施工／竹中工務店・竹中土木共同企業体
外構デザイン／鳳コンサルタント株式会社 環境デザイン研究所
ライティングデザイン／内原智史デザイン事務所
運営・管理／三井不動産商業マネジメント株式会社
開業／2015年11月

「EXPO'70」の記憶と資産を継承し、
MICEの可能性も秘めたEXPOCITY

三井不動産株式会社
商業施設本部 リージョナル事業部 事業推進グループ
主任 柴崎 翔平氏

昭和が始まり、45年が経過して開催された日本万国博覧会「EXPO'70」は、戦後日本の高度経済成長期を代表する一大イベントでした。それから、奇しくも45年を経た2015年に「EXPOCITY」が誕生しました。この開発が計画されたのは、インバウンドが目玉されはじめた頃。大阪府では大阪ミュージアム構想を掲げ、りんくうタウンと万博記念公園を柱にして、大阪に観光資源を創りだそうとしていました。

ラスベガスやシンガポールのマリーナベイなどには、充実したエンターテインメントやミュージアムなどがあり、宿泊施設・レストラン・カジノなどが複合的に集積することによって、世界中の全世代の人々に魅力を発信しています。EXPOCITYの開発にあたっては、万博記念公園全体が日本を代表する一大観光資源となるために何が必要かを考えました。万博記念公園にはEXPO'70の哲学が今もあります。パビリオンや太陽の塔など、当時のレガシーとともに熱も残されており、国立民族学博物館などの文化施設やホテルも存在します。さらに、国際試合ができるサッカースタジアムも加わります。これだけの施設を備え、豊かな緑に恵まれた場所に必要なのは何かと考えて計画したのです。ここでは、MICE施設としての可能性も考慮して開発してきました。公園に隣接する大阪大学などと連携すれば、コンベンション開催も可能です。

EXPOCITYは、世界に誇る観光資源となる可能性やパフォーマンスも秘めた施設なのです。



太陽の塔をインスパイアさせる白と赤で構成された「光の広場」



共用部通路の間接照明として用いられたLEDベースライトIDシリーズ



通路の色彩計画に合わせて配置されたコモレビダウンライト(当社ダウンライト内蔵)

三井ショッピングパーク ららぽーとEXPOCITY

約300店舗が集積された ショッピングエンターテインメント

約71,000m²の店舗面積にエンターテインメント性のあるショップやレストランなど約300店舗が集積された、ららぽーとEXPOCITY。ファッションからレストラン、ヘルス&ビューティ、サービス機能まで、あらゆる分野の旗艦店の一大集積として計画された。そこで行われるのは、体験型エンターテインメント×ショッピングのコラボレーション。幅広い層に向けたトレンド&情報発信をコンセプトに、ショッピング行為自体がエンターテインメン

トとなる場として位置づけられた。

施設中央に位置する3層吹き抜けの「光の広場」は、白をベースに赤をアクセントとしたEXPO'70(太陽の塔)をインスパイアさせる空間。天井には円形に穿たれたトップライト周辺に建築化照明を配置。各階周囲の軒下に設けられたLEDダウンライトとともに、広場で催されるイベントに賑わいを与えている。

また、光の広場や3階フードコートには大型ディスプレイを設置してエンターテインメントコンテンツを提供^{*}。施設内では約100台のモニターを活用してエリア放送を行うなど、エンターテインメントとショッピングを融合した情報発信がなされている。



施設内に約100台配置されたエリア放送用モニター



光の広場に設置された12面マルチディスプレイ



フードコートに設置された4面マルチディスプレイ

主な設備

光の広場

- LED建築化照明(天井部)
- LEDダウンライト(軒下部)
- 55インチ×12面マルチディスプレイ

共用部通路

- LEDダウンライト
- 一体型LEDベースライト IDシリーズ

フードコート

- 55インチ×4面マルチディスプレイ 施設内
- モニター(32,42,50インチ)×約100台

^{*} 情報発信システム企画・開発/凸版印刷株式会社、エリア放送企画・開発/関西テレビ放送株式会社



ららぽーとEXPOCITYの防災センターに設置された監視卓。右端は中央監視装置

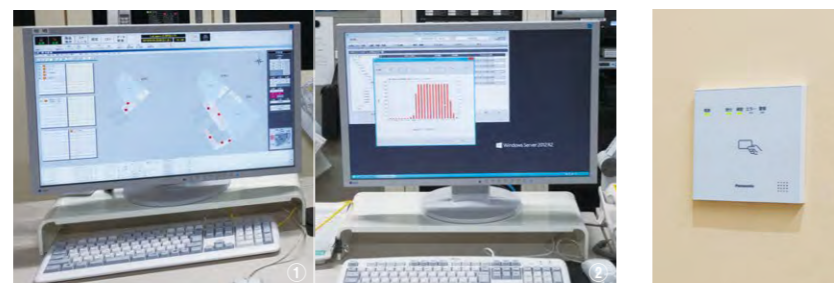


約4,100台の収容能力を有する自走式立体駐車場の1~3階に設置されたLEDベースライト iDシリーズ



ららぽーとEXPOCITY ビル設備

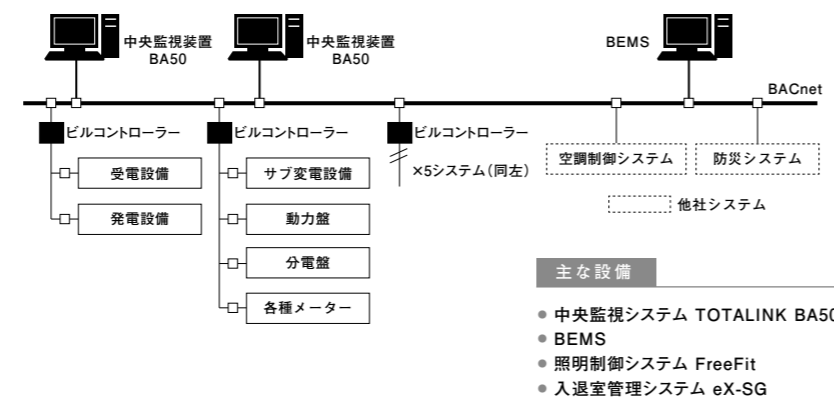
ららぽーとEXPOCITYの中央監視設備として、統合ネットワークBAシステムTOTALINK BA50が導入され、電気・空調設備の監視制御が行われている。監視エリアが約71,000m²にもわたるため、各サブシステムをBACnetで統合し、2台の中央監視装置で管理。また、施設内におけるエネルギーデータの収集・分析を行うBEMSも導入されており、施設全体のエネルギー利用や運転設備の最適化を支えている。中央監視設備以外にも、共用部照明を監視・制御するフレキシブル照明制御システムFreeFitや入退室管理システムが導入され、施設運営をサポートしている。



①照明制御システム ②BEMS管理画面

入退室管理システムの非接触カードリーダー

中央監視システム概念図 ららぽーとEXPOCITY



駐車場棟

EXPOCITYは名神高速道路と近畿自動車道・中国自動車道が交差する吹田ジャンクションに隣接し、2つのインターチェンジ(中国吹田IC・吹田IC)と接続する。また、万博記念公園外周道路は大阪府道一号でもある。この地が自動車交通の要衝に位置し、周辺市街地からのアクセスが集中するため、来場者の半数以上が車を利用すると想定。外周道路に沿った施設南東側に鉄骨造地上3階建ての立体駐車場が3棟(駐車台数約4,100台)建設*された。施設内には、近年普及が進む電気自動車やプラグインハイブリッド車への充電設備として、充電スタンドELSEEVも設けられている。



耐候性に優れた防湿防・雨型のLEDベースライト iDシリーズ



EV・PHEV用の充電スタンドELSEEV

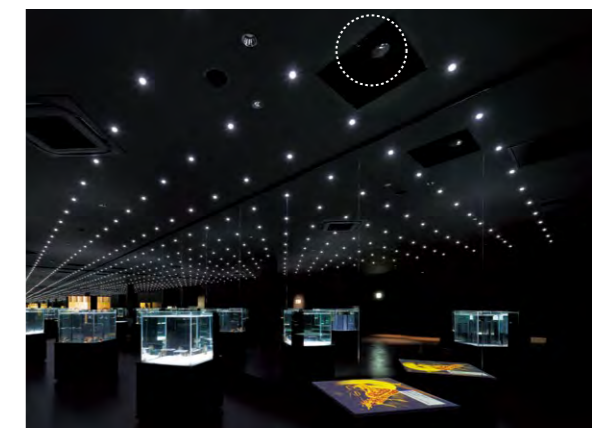
主な設備

- 一体型LEDベースライト iDシリーズ防湿・防雨型×693台
- LEDダウンライト×44台
- EV・PHEV用充電スタンドELSEEV

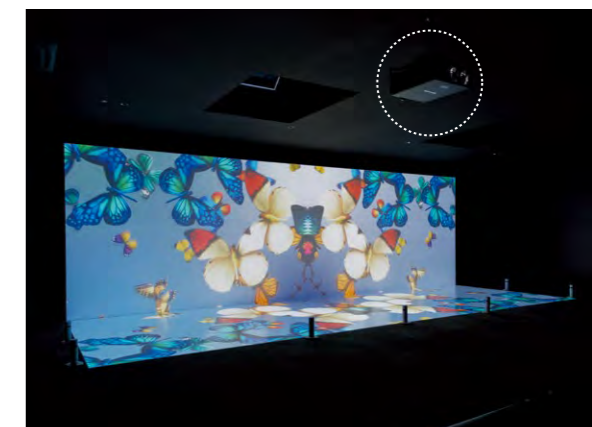
* 設計・施工 / 綿半鋼機株式会社



「わざらにふれる」ゾーンに設置されたフラットディスプレイ



「すがたにふれる」ゾーンで卓上に情報を表示するスペースプレーヤー



壁・床2面に投映する「つながりにふれる」ゾーンのシアター



平日でも多くの来場者がある窓口業務の負担をチケットインシステムにより軽減



入口でチケットのQRコードを読み込むことにより現在の入場員数の管理も行える



スーベニアショップに設置されたPOS



NIFREL防災センターの中央監視設備(左上)、防災システム(右)

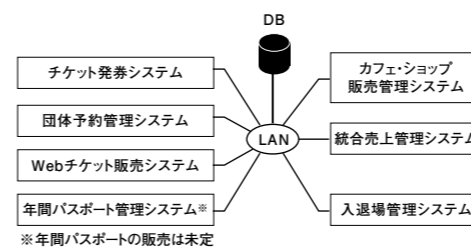
NIFREL
 施主 / 株式会社海遊館
 設計・施工 / 株式会社竹中工務店
 展示設計・施工 / 株式会社トータルメディア開発研究所
 チケットインシステム / パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社

生き物たちを間近に見る
 「生きているミュージアム」

水族館、動物園、美術館のジャンルを超えた「生きているミュージアム」のコンセプトは「感性にふれる」…NIFRELの語源でもある。海遊館で培われた25年の運営経験を生かして、アートを楽しむように生き物や自然の魅力を直感的で身近に楽しめるように工夫が凝らされている。

館内では、地球が育む『多様ないのちと個性のつながり』を展示テーマに、水や陸でくらす生き物たちや美しい自然の魅力がゾーン構成で展開され、生き物が眺められるカフェやスーベニアショップも併設されている。また、入場者数の多い集客施設では、団体や年齢などで入館料が異なるため、窓口業務が複雑化し、閉館後の集計管理も手作業のため時間を要する。このため、チケット発券システム、入退場管理システム、売り上げ管理システム、団体予約管理システム、さらにPOSなど、7つのシステムをLANで統合したパナソニックのチケットインシステムが導入された。これにより、スタッフの大幅な省力化が図られている。

チケットインシステム



※年間パスポートの販売は未定



主な設備

- 中央監視設備 WeLBA500
- 防災システム FR10
- DLPプロジェクター
- フラットディスプレイ
- スペースプレーヤー
- チケットインシステム



巨大スクリーンに本物と同じ大きさ、スピードの動物がシルエットで登場する等身大図鑑「アニマルベディア」

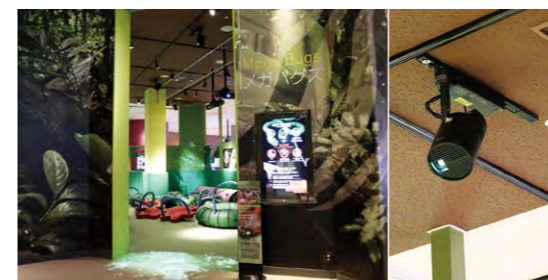
オービィ大阪

施主 / 株式会社セガ・ライブクリエイション
 フェリスウィールインベストメント株式会社
 システム設計 / パナソニックシステムネットワークス株式会社
 システムソリューションズジャパンカンパニー

全身で自然が体感できるミュージアム

2013年の1号店「オービィ横浜」に続き、EXPOCITYにオープンした大自然超体感ミュージアムは、セガサミーグループとBBC Earthによる共同プロジェクト。英国放送協会BBCの自然番組製作者「BBC Earth」が全面協力し、館内のエキシビジョンエリアやシアターでは、同番組による迫力ある大自然の映像コンテンツに、セガ

サミーグループの革新的な技術を融合、子供たちが全身で自然を体験できるように計画された。動物のシルエットが等身大で動く「アニマルベディア」では、人感センサーにより選択した動物のトリビアを表示。楽しみながら動物の知識が学べる。巨大映像は2台のレーザープロジェクターに超単焦点レンズを組み合わせて投写されている。また、常設型4Kシアター「シアター-23.4」のメインスクリーンは日本最大級の幅40m、高さ8m。4Kレーザープロジェクター3台がBBC Earthの高品質映像を提供している。これ以外にもプロジェクションマッピングや3D映像など、多彩な手法を用いたエデュテインメントが提供されている。



森の雰囲気を出し出すスペースプレーヤー



①幅40m巨大スクリーンを備えた「シアター-23.4」 ②4Kレーザープロジェクター ③映像送出装置



①大自然の映像がプロジェクションマッピングされる「ベースキャンパス」 ②映像により姿を変えるオブジェ ③大壁面のプロジェクションマッピングを実現する4台のプロジェクター

主な設備

- 3チップDLP方式レーザープロジェクター
- 1チップDLP方式プロジェクター
- フラットディスプレイ
- スペースプレーヤー

